例会記録

日本医史学会・神奈川地方会（第33回）9月合同例会　平成20年9月13日（土）
相鉄岩崎学園ビル5階505号室

一般口演

1. 三才的病因論　家本誠一
2. 赤痢菌とペスト菌の耐性化の歩み　滝上　正
3. ハンセン病（Leprosy）の世界史　佐分利保雄

特別講演

アドルフ・マイヤーから学ぶこと　松下正明

平成20年10月例会　平成20年10月25日（土）
順天堂大学医学部9号館2階8番教室

1. 医師の装束　町泉寿郎，天野陽介，小曽戸洋
2. 人体観の歴史　坂井建雄

平成20年11月例会　平成20年11月22日（土）
順天堂大学医学部9号館2階8番教室

シンポジウム「森林太郎と森鷗外」

1. 統計論争をとおしてみた森林太郎―シンポジウムへの導入をかねて―　岡田靖雄
2. 森林太郎の医学大業績―臨時脚気病調査会の創設とその成果―　山下政三
3. 森鷗外と『後北游日乗』，『北游記』―函館，青森を中心として　松木明知
4. 森鷗外と医学留学生たちの交流　山崎光夫

例会抄録

医師の装束

天野　陽介，町　泉寿郎，小曽戸　洋

日本における医師の装束については，その変遷，官位と装束との関係など未だ明らかになっていない事項が多い．これらを考究していく端緒として，今回は肖像画に描かれた装束に絞って検討を加えた．調査対象には『杏雨書屋所蔵医家肖像集』（武田科学振興財団，2008.6）を用いた．例会当日は，肖像画に見られる装束の分類に加えて，肖像画数点を取り上げ装束の解説を行った．

衣服は大きく5種がみられる．朝服に類するもの，法衣に類するもの，羽織に類するもの，上下に類するもの，その他である．

①朝服に類するもの

朝服とは官吏が朝廷に出仕する際に着用した衣服である．主に宮廷医がこの類の衣服を着けている．束帯に次ぐ正装である衣冠を着用したものには，和気親成，山科厚安，畑黄山，和田東郭などがいる．狩衣は平安時代には公家の略装であったが，後に礼装となった．狩衣を着用しているのは越後丹介，小森桃塢がある．ほかに宮廷医ではないが吉益東洞・吉益南涯（1750–1813）が狩衣を着用している．

②法衣に類するもの

法衣とは僧尼の着る衣服．医師が剃髪し僧形をなした始めは諸説あり定かではない．富士川游は「思うに，医者が僧形をなしたのは，鎌倉の武家にて戦場にて事なからしめんためにとて医者を僧形になしたるがその始にて，それが後に至りて京都の医官にも移り行われたるものではないかと考えられる」（「医者の風俗」『富士川游著作集3』）と考察している．